

をきり開く仕事にせいを出しました。子どもたちもよくはたらき、子もりや農作業の手つだいのほか、ふろたきやすいじもしました。このように親も子も1年中土地をきり開く仕事にあたりました。

②生活のようす

- (ア)、きり開いた土地には、陸稲(おかぼ)、そば、じゃがいもを中心に、あわ、とうもろこし、大豆、小豆などをつくっていました。しかし、土地がやせていたので10アールあたり陸稲で1～2俵位しかとれず、大豆・小豆などもだいたい同じくらいでした。
- (イ)、住む家は、杉皮ぶきの家で、かべも荒かべのような家が多かったたようです。
- (ウ)、食べものは、米はじゅうぶんでなかったもので、いろいろなものを食べました。

③使った道具

- くわ————はたけをたがやす。
- 唐ぐわ————木の根をほりおこしたり、深くほる。
- なたがま————枝打ちしたり、しのをきったり、細い木の根をきる。
- 草刈りがま————作物をかりとったり、草をかったりする。
- せおいかご————竹でつくられ、物をはこぶ。
- やせうま————木になわをあんのでつくったもので、物をはこぶ。
- 金くまで————開こんしたとき、こまかい木の根やしのがらななどを集める。
- とうみ————手で風をおこし、もみなどよりわける。
- ふるい————丸い木わくに金あみがはられ、大小にくわけする。
- むしろ————収かくした作物をほすのにつかう。